

日本では、アメリカ、カナダに比べると、単位面積当たり六倍以上の農薬を使用しています。リンゴの名産地である長野県などでは、余り農薬を使い過ぎたために蜂がいなくなり、いちいち筆を使って人工受粉をしています。そしてその一方では、子供の視力が低下したり、周辺視野狭さく、眼球運動異常、その他全身に異常な神経症状を来すことが問題になり、農薬が原因ではないかと学会でも佐久の奇病として議論されています。

そこで、私達の会の会員であり、農村医学を二十年以上に亘って御研究になつておられる、新治協同病院内科医長、田谷先生に、農薬と私達の生活について書いていただきました。

農薬はあなたを蝕んでいる

◇ 農村公害

田谷 利光

谷田部町主婦農業講座の第三講は、「農村公害と主婦の健康」というテーマでした。

一般に公害五悪といわれるものは、騒音、大気汚染、悪臭、水質汚濁、地盤沈下です。従って、公害は都会のものであり、山紫水明の農村には公害はない筈です。谷田部町には先覚者がいるとみえて、農村公害という難問題を提起してきたのです。たしかに考えればあります。むしろ歴史的事実は煙の都大阪よりも古くからあるといえます。それは何でしょう。

農村公害です。つまり、金肥を田畑にまきちらすことです。勿論、悪臭もあります。しかも、これが農村の人々に寄生虫禍をもたらしていたのです。せめて便溜をつくって十分腐熟させてから使うことや、便溜に石灰窒素を混入させて寄生虫卵を熱処理することなどを指導してきました。

幸い、最近では金肥を使うことはなくなりましたので寄生虫保有者もいちじるしく少くなりました。その当時「こやしまけ」という皮膚病があり、足にできた湿疹がいつまでもなおらなかった経験をした人もいると思います。

まさに、農村公害の親玉といえます。